

第2学年 英語科学習指導案

1 単元名

UNIT3 My Future Job

2 単元の目標

- (1) 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。不定詞を用いた文の理解のもとに、何かをする目的や感情の原因、大切だと思ふことを伝えたり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。(知識・技能)
- (2) 自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしている。(思考・判断・表現)
- (3) 自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしようとしている。(主体的に取り組む態度)

3 単元構成の意図

男子4名、女子12名、計16名のクラスである。2つの小学校から集まって1つの学級になったのだが、それぞれ幼稚園からずっと同じクラスで生活しているため、言葉を介さずともお互いのことをよく分かっている集団である。男女の仲もよく、教師の発問や友人の発表にも素直に反応し、互いに言葉をかけ合いながらゆっくと学んでいる様子が見られる。しかし、基礎的な知識や技能について十分ではない生徒が多く、伝えたいことを吟味しているうちに時間ばかりが過ぎてしまうことが多い。

この単元は、朝美とメグが将来について話したり、朝美が自分の職業体験のレポートをまとめたりして、これからの社会や自分の将来像について考えを深めるといった設定である。メグがインターネットでみつけたAIに関する記事から始まり、将来についてのメグと朝美との対話や朝美の職業体験レポートなどが紹介されている。さまざまな職業分野における活用が検討されているAIによる社会変化について考え、朝美の職業体験レポート内容を共有することで、自分の将来や夢について考えるきっかけにしたい。言語材料としては、不定詞(副詞的用法、形容詞的用法)とIt is...+toの文構造が扱われている。そのため、生徒にとっては職業体験という学校での学習や活動の場面を設定して「説明する」「報告する」「質問する」「発表する」言語活動を展開することができる。

指導に当たっては、自分の将来像や夢という、2年生の進路学習と密接に関連した題材を生かし、身近で適切な場面設定を行うことにより、不定詞の使用場面や働きを理解させたい。さらに、様々な職業分野におけるAIの活用に対する興味・関心を高め、これからの社会や働き方の変化に目を向ける姿勢を育てたい。

4 単元の計画 (総時数8時間)

時	場面	学習活動(夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す 習得する	自分がよく行く場所について「…するために、そこへ行きます。」という文章を数多く作成し、相互にその場所を当てる。	動作や行為について、それをする目的を理解したり伝えたりすることができる。(知・主)
2	習得する	自分がうれしいと感じることを想像し、「…してうれしかったです。」というような文章を数多く作成する。	うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を、理解したり伝えたりすることができる。(知・主)
3 本時	考える 対話する	将来の夢や夢実現のためにしていることをペアになって伝え合う。	おたがいの夢を知るために、夢実現のためにしていることなどについての情報を整理して伝え合うことができる。(知・主)
4~5	考える 対話する	自分が興味を持っていることについて述べ、どのようなことをすればそれが自分の強みになるか、ほかの生徒からアドバイスをもらい、それを参考に英語で書く。	職業についてよく知るために、仕事の内容などについて書かれた文章の概要を促したり、情報を加えて説明したりすることができる。(思・主)
6~7	振り返る 考える	コンピュータやAIを活用するうえで、自分自身が重要だと思うことを英語にし、発表する。	これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、理解したり伝えたりすることができる。(知・思)
8	考える	職業体験に行った人のレポートを読んで職業体験の内容をペアで伝え合い、グループで発表する。	自分の体験を伝えるために、職業体験について、事実や意見を整理して、尋ね合ったり伝えたりすることができる。(知・思)

単元を通して育成したい子どもの姿

自分が体験したことや学んだことなどについて、尋ねたり伝えたりすることを通して、これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について述べるることができる姿

5 本時のねらい

将来の夢についてのインタビュー活動を通して、お互いの夢や夢実現のためにしていることなどについての情報を整理して伝える。

6 学習過程

	学習活動・内容 (T主な発話・C生徒の発話)	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	1. 本時の学習課題を捉える。 (1) 既習事項を確認する。 (2) 本時の課題をつかむ。 【課題】 「あなたの夢は何ですか」というテレビ番組のインタビューで、どういったやり取りをすればよいだろう？	10 一斉	○ カードゲームで既習事項を確認し、それらを黒板に貼っておくことで、本時の学習でも活用できるようにする。
	2. 課題解決の見通しを持つ。 T: 将来の夢についてのインタビュー番組を 30秒で制作し、録画します。インタビューする立場の人はどのようにインタビューしますか。インタビューされる立場の人はどのように答えますか。	5 一斉	○ インタビューをする人とされる人に分かれて、役割が同じ者同士2人ペアになり、インタビュー場面を想定して英語で何と表現するか考えさせる。
課題解決	3. 課題に取り組む。 (1) 1回目のやり取りを録画する。 (2) 録画したものを確認する。 (3) 各ペアがどんなことを聞いたか確認する。	5 ペア	○ タイマーで30秒測り、ペアで一度録画させる。 ◎ 録画を見て自分ができなかった点を確認することで課題を意識させる。 ○ 質問を確認することで、必ず聞かなければならない質問を洗い出す。
	4. 課題を解決する。 (1) うまくいかなかった点を全体で振り返る。 T: うまくいかなかったところはどこだろう。 C: 質問が続かなかった。 C: 英語でなんて言えばいいのか分からない。 T: 何と言いたかったのだろう。 (2) ペアでインタビューの構成を考え直す。 T: これはテレビ番組だけど、やり取りだけでよいだろうか？ C: 相槌とか？ T: インタビューって急に始まるものかな？ C: 突然始まるのは変。 T: インタビューの終わり方は？ C: 何か言って終わる。 (3) 2回目のやり取りを録画する。	20 一斉 ペア	○ 躓きが多くみられたところを聞き取り、どう表現すればよいか皆で考える。なるべく既習事項を用いた平易な表現に置きかえて文章を作成するように促す。 ○ 考え直したインタビューをワークシートに記入させる。 ◇ 情報を整理し、伝え合おうとしているか。(観察・画像) ◎ 録画して自分たちのやり取りを客観的に見ることで、よりよいものにしようとは何度も粘り強く取り組ませる。
振り返り	5. まとめる。 (1) 録画したものを鑑賞し、自分たちのインタビューと比較検討し、学び合う。 (2) 良かった点について意見を述べる (3) 自分達のインタビューを再考し、まとめる。	7 個人	○ いろいろなインタビューを鑑賞させて、良いものを取り入れさせる。 ○ 理想的なやり取りをワークシートに書き込ませる。 ◇ 情報を整理し、たずねたり答えたりする技能を身に付けているか。(ワークシート)
	6. 本時を振り返る。 インタビュー番組の制作で必要になった表現にはどのようなものがありましたか？	3 個人	○ 自己評価カードに、本時学んだことや次の活動への意欲などを生徒の言葉でまとめさせる。
	7. 次時の活動についての見通しを持つ。		○ 夢を実現するために大切なことは何かを考えることで、次時の授業の意識付けを図る。

